

登米ひまわり訪問看護ステーション

症例概要 利用者：50歳代後半 男性 要介護4

利用期間：令和4年8月～令和6年11月現在

経過：経過：令和3年11月に、C6～7の頸髄損傷を受傷し四肢麻痺となった。急性期病院で加療後、令和4年2月に回復期病院に転院。同年8月に自宅退院となり、当事業所の訪問看護とリハビリの利用開始となった。入院中から将来的に復職したいとの意向が聞かれていたが、起立性低血圧が著しく、リクライニング車椅子でやっと離床できる状態であった。しかし、ご家族の協力を得ながら、粘り強く体調管理とリハビリに取り組み、復職を叶えることができた。

内 容

公務員として長年勤務し、管理職の立場で活躍されていました。ご自宅での作業中に頸髄損傷を受傷し四肢麻痺となったが、入院中から将来的な復職の希望を諦めずに、積極的にリハビリに取り組みされていた。しかし、起立性低血圧が著しく、リクライニング車椅子での自宅退院となりました。

退院後はご自宅でICTを活用し、往診医との情報共有やカンファレンスにて検討を重ね、状態に合わせて服薬調整が行われた。また、リハビリでの適宜リクライニング車椅子の角度調整や離床時間を検討。加えて、ご家族に対しリフトでの移乗介助方法の指導を実施しました。座位耐久性が向上したタイミングで電動車椅子の給付申請をし、令和5年7月に購入しました。

意欲的にリハビリに取り組みされた結果、今年3月には10時間程度の離床が可能となりました。外出が可能になった為、車いすが乗れる福祉車両を購入し、ご家族とドライブに出かけるようになり、大好きなラーメンを食べに行ったり、道の駅で買い物をしたりといった報告が聞かれるようになっていきました。さらに6月に、娘さんの結婚式参列と、出身地での同窓会に参加したいとご本人から相談がありました。いずれも宿泊が必要であったため、ホテルの情報収集や、ご家族への移乗方法をはじめとした動作指導、緊急対応時のアドバイスなどを行い、結婚式と同窓会へ無事に参加することができました。その間も職場と復職に向けた調整を継続し、職場でのパソコン操作に必要なジョイスティック型マウスやボタンを導入することで「復職」が決定しました。

8月から半日、9月からはフルタイムで勤務されています。現在はご家族のご協力を得ながら通勤され、職場でも大きな問題なく経過しています。

離床さえも困難な状況での自宅退院だったが、ご本人とご家族が粘り強く前向きに取り組む姿勢

が、医療・介護・職場の関係者を巻き込み、希望をかなえることができたように感じる。利用者に寄り添う立場として、我々もやりがいを感じさせてもらった症例です。